

第14回 千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会

前回検討会における意見と回答

令和7年3月24日

国土交通省 北陸地方整備局 千曲川河川事務所

第13回検討会における意見と回答：実施概要

■第13回検討会の概要

日程：令和6年3月14日（木）13：00～15：00

議事：

- (1) 前回検討会における意見と対応状況
- (2) 自然再生事業の実施状況
- (3) 令和5年度モニタリング調査結果報告
- (4) 令和6年度整備予定箇所掘削案
- (5) 地域連携の取組状況
- (6) 今後の予定

■主な意見と回答

(次スライド参照)

第13回検討会における意見と回答：主な意見

No.		意見	回答
1	自然再生事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ハリエンジュは大事な蜜源となっている。河川管理側からすると河川敷の樹木は、川の流れの阻害になる存在であることは理解しているが、ハリエンジュは養蜂の蜜源にもなっているため、考慮いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ハリエンジュによる河川管理上の課題も事務所の都合もよく理解されたうえでのご意見であり、よく相談しながら対応を実施していく。
2	令和5年度モニタリング調査結果報告について	<ul style="list-style-type: none"> 大規模出水後のモニタリング調査は、他の河川にもデータを活用できる大変重要な調査である。施工前1年間、施工後3年間調査も整備前からの変化を把握することは、基礎データとして重要である。 継続いただくことともに、地域の皆様にもこうしたデータを活用しながらこの地域の特徴を知っていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種モニタリング調査は、今後もモニタリング部会に図りながら実施していく。 結果の活用については地域協働の取組などとも連携しながら、検討していく。
3	令和6年整備予定箇所 の掘削案について	<ul style="list-style-type: none"> 横断図を見ると、中地区の左岸側の低水路は平成24年では深掘れ傾向があり、令和元年東日本台風で深掘れ箇所が埋め戻されたように思われる。 低水路の変化で状況が変わる可能性があるため、河床変動計算にあたっては低水路の変化についても細かくみるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 河床変動計算を行い、深掘れの変化、上下流の変化を確認し、砂礫河原を維持できる断面を検討した。 検討結果は技術部会にて了解を得て掘削案を決定した。
4	地域連携の取組状況について	<ul style="list-style-type: none"> 水辺の楽校で実施している自然体験学習（千曲市）は毎年定員一杯となっており、満足の声を多く頂いている。安全に千曲川に親しんで頂く機会を毎年提供することができており、地域との連携・協働の機会にもなると考えているため、今後も本取組は続けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も沿川市町と協働しながら、地域住民に千曲川に親しんでもらう取組を継続していく。 （R6.6千曲市、R6.8上田市にて協働イベント開催）
5		<ul style="list-style-type: none"> 市報で事業を紹介いただくなど、治水の意義や自然再生についての認知が広まってきている。今後も色々な手法で自然再生事業を紹介できればと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな形で広報を行っていききたいと考えている。引き続き御協力いただきたい。（R6.5千曲市広報掲載）